

1 製品・規格

Q-11 壁等の厚さが薄い部位にフラットデッキをのみ込ませて問題はないか？

A

このような場合、Q 10 に記載されている通り設計者の判断を仰ぐ必要があります。一般的には、次の2通りの方法が用いられています。

- 1) 設計壁厚にデッキのみ込み代 10mm を増打ちする。
- 2) のみ込みをなくし、フラットデッキに落下防止金物を取り付ける。

フラットデッキとコンクリートの付着力については期待できないものとして、通常フラットデッキの落下防止を目的にコンクリート部に 10mm のみ込ませて施工されています。しかし、壁式構造の場合あるいは間仕切り壁の場合、壁厚が薄いことから断面欠損の問題があるため、「フラット指針」(平成 18 年版) 4.9 に記述されている通り、壁梁に 10mm のみ込みさせず、スラブにデッキを直接固定し落下防止の措置を施します。

落下防止の措置としては、落下防止金物をフラットデッキの両端部に 1 枚当たり 1 個以上(すなわち 1 枚当たり 2 個以上)取り付けることとします。落下防止金物の形状は、「フラット指針」4.9 に示す 6 × 30 をフラットデッキに溶接しスラブに定着させる他、デッキエンドクローズに Z 形の金物を溶接または、差し込む方法が取られています。デッキ落下防止金物の取り付け目的は、型枠解体時や床スラブ硬化後にデッキ自重により落下を防止するためであり、スラブ打込み荷重は当然デッキと型枠で負担しなければなりません。